

第二十七回 帝國議會 商法中改正法律案外一件兩院協議會議事速記錄第一回

明治四十四年三月二十一日(火曜日)午前十時三十分開議

貴族院協議委員

議長 男爵 波多野敬直君
副議長 伯爵 富井政章君

子爵 加納久宜君
男爵 村田保君

男爵 久保田讓君
目賀田種太郎君

岡野敬次郎君
桑田熊藏君

鴎山和夫君
長島鷲太郎君

元田肇君
松田源治君

鴎澤平吉君
片守明君

岡田溫君
此助君

森井阜
藏君

衆議院協議委員

議長 副議長

鳩山和夫君
長島鷲太郎君
元田肇君
鴎澤平吉君
片守明君
岡田溫君
此助君
藏君

〔抽籤ニ依リ男爵波多野敬直君議長席ニ著ク〕

○議長(男爵波多野敬直君) 商法改正案ニ付テ是ヨリ協議會ヲ開キマス

○法學博士富井政章君 ソレテハ簡單ニ不同意ノ理由ヲ述ベマス、衆議院ハ本案ニ付テ多クノ修正ヲ加ヘラレマシタガ、其修正ノ中テ吾ミ於テ強テ反對意見ヲ固執スルマデノ必要ヲ認メナイモノモアリマス、又ドウ考ヘマシテモ御同意致シ兼ネル點モアリマス、ソレハ甚グ遺憾ニ存ズルトコロデアリマス、今修正ノ各條項ニ付テ意見ヲ述ベマスコトハ、正當ノ方法アルトハ思ヒマスケレドモ、雙方ノ論旨ハ既ニ兩院ノ本會ニ於テ竝ニ委員會ノ速記録等ニ依テ大抵分テ居ルコト、思ヒマス、故ニソレハ省略スルコトニ致シマシテ、唯二三ノ點ニ付テ一言致シタイト思ヒマス、例ヘバ株式會社ノ財產目錄ニ殊ニ利益チ營業ヨリ生ジタル確實ナル利益デナケレバ配當セシメナイト云フコトニシタインデアリ

シテ、此點ニハ大ニ重キヲ置イテアルノデアリマス、次ハ會社重役等ノ犯罪ニ對スル罰則デアリマスガ、是モ刑法ノ規定アルノミデハ甚ダ不十分デアリマシテ、彼ノ預合相場收賄等ノ行爲ハ、多ク罰セラレナイト云フコトニナルノデアリマス、我經濟界ノ現狀竝ニ外國ノ立法例等ニ考ヘマシテ、是等ノ刑罰規定ハ甚ダ必要ト考ヘルノデアリマス、唯ニ第二百六十一條ノ如キハ少シ書方が廣過ギルカト思ハレル嫌ハアリマス、ソレ故ニ何程カ罰則適用ノ範圍ヲ狹クスルトカ、或ハ刑ヲ輕クスルトカ云フコトニアレバ、或ハ考ヘテ見ルコトガ出來マセウカト思フノデアリマスケレドモ、全部削除ト云フコトニハ到底同意ヲ致シ兼ネルノデアリマス、ソレカラ三百二十七條ニ一項ヲ加ヘラレマシテ、運取扱人ガ運送人同様ニ、貨物引換證ヲ發行スルコトヲ得ルトセラレタノデアリマスガ、是モ吾ミノ考ヘマスルトコロトハ、大ニ違フノデアリマシテ、吾ミノ考デハ貨物引換證ノ如キ一般ノ人ニ對シテ重大ナル效力ヲ生ズルトコロノ證券ハ、運送人以外ノ者ニ於テ之ヲ交付スルコトが出來ルト云フコトハ、甚ダ弊害アルコト、信ズルノデアリマス、實ハ或方面ヨリ出マシタシタ、故ニ貴族院ノ委員會ニ於テハ鐵道ノ當局者、即チ總務局長ノ出席ヲ求メマシテ其實況ヲ質シマシタコロガ、貨物引換證ハ確ニ各驛ニ於テ出シテ居ルト云フコトヲ斷言セラレタノデアリマス、雛形ヲ見セラレ又統計モ示サレテ、決シテ間違ノナイト云フコトヲ言ハレマシタ、ソレ故ニ吾ミハ當局ノ言ヲ信シテ此點ニハ手ヲ著ケナカッタノデアリマス、唯念ノタメ將來間違ノナイヤウニ諸方面ニ内訓ラン、注意ヲ與ヘテ吳レト云フ希望ヲ述べ置イタノデゴザイマス、此外ニモ尙意見ヲ述ベタイ點ハアリマスケレドモ、最初ニ述ベマシタ理由ニ依テ、先ツ是位ニ止メテ置カウト思ヒマス、若シ各種ノ問題ニ就テ必要が生ジマシタナラバ、私ヨリモ遙ニ商法ニ明ルイ方モ委員中ニ居ラレマスカラ、他ノ委員ヨリ述ベラル、コトデアラウト信シマス

○長島鷲太郎君 唯今富井博士ヨリシテ不同意ノ點ヲ御述ベニナッテ、吾ミニ於キマシテモ本案ニ就テ貴族院ノ御意見ト一致スルコトノ出來ナインヲ甚ダ遺憾ニ存シマス、要シマスルニ意見ノ異ル點ハ、吾ミ共ノ考ヘルトコロニ依リマスルト、成ベク現狀ニ急激ノ改革ヲ與ヘヌト云フコトガ吾ミノ主眼トスルトコロデ、是ガ貴族院ト意見ヲ異ニスル點ト考ヘマス、衆議院ニ於キマシテハ其見ルトコロニ依リマシテ修正ヲ加ヘマシタ點モ多々アリマスガ、是モ富井博士が言ハル、通り、略、兩院ニ於テ各、修正ノ意見ノ存スルトコロハ分テ居ルコト、考ヘマスカラ、其點ニ就テハ述ベマセヌガ、唯今富井博士ノ述ベラレマシタコロノ第一ノ財產目錄ノコト、殊ニ差額ヨリ生ズル利益分配ノ如キ、是モ或ハ一應御尤モノ御意見トハ存シマスガ、會社ノ財產ヲ鞏固ニスルト云フ御意見ヨリ見マスレバ或ハ適當ノ修正カモ知レマセヌ、併ナガラ今日商業社會ノ實際カラ申シマスレバ、此ノ如キ修正ハヤハリ先程述ベマシタヤウニ、現狀ニ就テ急激ノ改革ヲ與ヘルモノデ、却シテ是ハ實業社會ニ不安ヲ來ス基トナリハセヌカト云フタメニ、此點ハ御同意が出來ナインデア

リマス、第二ノ刑罰規定、是が抑、本案ノ争點ニアラウト思ヒマス、吾ミ共ノ見ルトコロ
デハ是モヤハリ餘リ現状ニ急激ノ改革ヲ與フルコトヲ望マナイ、或ハ一時ニ起リマシタ會
社ノ破綻等カラ見マスレバ、斯様ナ規定ヲ設ケルコトモ必要アル、或ハ我國ニ此改正
案が初メテ出タノデハナイ、外國ニ於テモ立法例ガアルヤニ承知シテ居リマスケレドモ、併ナ
ガラ総令斯様ナ刑罰制裁ヲ設ケルノ必要アリト致シマシタコロガ、尙少シク是ハ相互
保険會社ノヤウナモノニ對シテノ制裁規定テモ同一ニ規定スル、其際ニ於テ斯様ナ規
定ヲ設ケテモ遲クハナイ、殊ニ私ハ商法ノ特別委員ト致シマシテ、此點ニ付テ政府委員
ニ問フタノデアリマスガ、今回ノ商法案ヲ見マスルト殆ド唯今商事會社ニ準シラレタモノ
ガ、今度ハ此改正商法ニ據テ所謂純然タル商事會社ト見テ、サウシテ此改正案ニ規定
シタル刑罰ヲ科スルコトニナツテ居リマス、茲ニ一ツドウシテモ都合ノ付カヌモノガ一ツ
アルノデアリマス、即チ保険業法ニ於テ保険ヲ營ムモノハ、株式會社及相互保険ト
云フコトニナツテ居リマシテ、株式組織ノ保険會社ハ固ヨリ商法ノ罰則規定ヲ適用
シテ居リマス、而シテ此度ノ商法改正案通過ノ後ハ、此改正案ニ規定シタル刑罰ノ制裁
ヲ受ケルコトニナツテ居リマス、之ニ反し相互組織ノ保険會社ハ、ヤハリ營利會社ニアリ
マスガ、是ハ組織議決等ニ付キマシテ株式會社ハ總テ商事會社ノ規定ヲ準用サレテ居リマス、而
シテ其不正ノ公告シタルトキトカ、不正ノ通知シタルトキアルトカ云フヤウナ場合ニハ、現
行商法中ニ規定シテ居ルト同様ナル規定ヲ、相互保険業法ニ設ケアルノデアリマス、
然ルニ此改正案ニ據リマシテ株式會社ニ刑罰ヲ科スルコトニナリマスルト、唯今マテ同
一二科セラレタル同一ノ行爲ニ付テ、同一ノ刑罰ヲ科セラレタ相互保険ニ付テ釣合ガ
付カヌノデアリマス、一ハ同一ノ行爲ニ付テ過料ヲ科セラレ、株式組織ノモノニ付キマシテ
ハ今回ノ改正商法ニ據テ、刑罰ヲ科セラル、ト云フコトニナリマスルカト云フコトヲ政府
委員ニ問フタコロガ、是ハイヅレ改正ヲシナケレバナラスト云フ政府委員ノ御答辯デアリ
マシタガ、斯様ニ致シテ見マスルトヤハリ斯ウ云フヤウナモノヲ同一ニ律スルニハ、ヤハリ
保険業法ノ改正ガ同時ニアツテ然ルベキカト私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、斯ウ云フヤウナ
譯テ、總テノ調和ヲ得セシメルタメニハ、商法改正案ダケニ直ニ刑罰ノ制裁ヲ設ケルト云
フコトハ少シク突飛ナル改正案アハナイカト云フ點ガ私共ノ刑罰制裁ヲ此改正案ニ設ク
ルコトニ同意ラ致ス點ニアリマス、ソレカラ次ニ運送取扱人ト同一ニ視テ、
貨物引換證ヲ作ラセルト云フ點モ御不同意アアリマスガ、是モ富井博士カラ縷々御
述ニナリマシタヤウナコトデアッテ、ヤハリ實際ノ取引ニ於キマシテハ、運送人ニアラズシテ
運送取扱業書ガ、貨物取引證ヲ作成スル場合モ無イコトハナイノデアリマス、斯ウ云フ事
實ヲ認メタノデアリマス、吾ミ共ノ考ヘマスルヤウニ、現ニ行ハレテ居ルトコロノ商法が出
來マシテ、以後、商習慣ノ上ニイロノ、發達シタモノガアルヤウニ見受ケテ居ルノデアリ
マス、或ハ白紙委任狀付ノ株式證券ヲ無記名證券同様ニ認メラレテ居リマスルシ、又
貴族院ニ於テ御修正ナリマシテ、吾ミモ賛成致シテ居リマストコロノ所謂倉荷證券ノ如
キ、一枚證券ノ交付トカ、斯ウ云フヤウナ商法ノ法文デ極メタ以外ニ於テ、自然商習
慣ノ上ニ於テ當業者が實際行ヒ來リタルモノガアリマス、此運送取扱人が貨物引換證ヲ
發行スルコトモヤハリ左様ナ慣習が行ハレルコトヲ認メタ、メニ、衆議院ニ於テハ斯様ニ
修正致シタ譯テアリマス、然ルベク御再考ヲ仰イテ、成ベク此商法改正案ニ付キマシテ

○法學博士富井政章君 私ノ述べ方が明瞭デナカッタカモ知レマセヌ、或ハ其タメニ花
井君ノ誤解ヲ招イタカモ知レヌト思フノデアリマス、吾ミハ決シテ此罰則が不完全デアルト
認メテ居ナインデアリマス、犯罪ノ範圍モ亦刑ノ分量モ是ア宜シイト思ウテ、即チ原案デ
宜シイト思ウテソレニ贊成致シテ居ルノデアリマス、唯法條問題トシテ或ハ此書方が廣
過ギルトモ見得ルカトモ思ヒマスル、故ニ若シサウ云フ點ヨリシテ幾ラカ範圍ヲ狭スル、或
ハ刑ヲ輕クスルトカ云フコトデアレバ、決シテ吾ミニハソレヲ宜イト思ウテ居ルノデアリマセ
ス、初メカラソレガ宜イト思ウテ居ルノデアリマセヌケレドモ、サウ云フ點ニ付テ纏マツタ意見ガアルト云フ譯テハ
思フノデアリマス、ソンナラヤウニ云フ點ニマテ讓レルカト云フコトニ對シテハ、マダ吾ミノ
間ニ御目ニ懸ケ得ルヤウナ纏マツタ案ナドガ出來テ居ルノデハアリマセヌ、唯個人的ニ銘イ
思フノデアリマス、ケレドモ全ク罰金ダケニシテシマフト云フコトハ、到底御同意ノ出來ナイコトデアラ
アリマセヌ、唯私一己ノ意見トシテ申上ケレバ、總テ體刑ヲ削シテ罰金ニシテ宜シシト云
フコトハ、到底吾ミノ同意スルコトハ出來ナイノデアラウト思ヒマス、體刑ヲ科スベキ場合
ヲ狹メル、或ハ明瞭ニスルトカ云フヤウナコトニ付テハ、大イニ攻究ノ餘地ガアルト思フノデア
リマス、ケレドモ全ク罰金ダケニシテシマフト云フコトハ、到底御同意ノ出來ナイコトデアラ
ウト思ヒマス、ソンナラドウ云フ程度ニマテ改正スルカト云フコトニ付テハ、唯今申上ゲマ
シタ通り、銘々頭ヲ痛メテ居ルコト、ハ思ヒマスケレドモ、貴族院側ノ成案ト云フヤウナモ
ノハマダ無イノデアリマス

○元田肇君 私ハ質問デモ意見ヲ述ベルノデモアリマセヌガ、既ニ貴衆兩院ニ於テ討論ヲ盡シテ、今日協議會ヲ開クコト、ナツテ大體ノ御意見等ハ承ハッタノデアリマス、茲ニ此席ニ於テ討論ヲ盡スト云フコトが進行ノ上ニ抄ルベキ順序ナルカドウテアリマセウカ、今日マテ刑法其他ニ付テ大問題ヲ協議ニ付シマシタ時分ニ必ズヤ此中ヨリ特別委員ヲ選定致シマシテ、御意思アルトコロヲ互ニ膝詰テ極ク御熟議ノヤウニ攻究致シマシタ結果、成案ニナツタコトモアッタノデアリマス、唯今ノ程度若クハ然ルベキ程度デ宜シウゴザイマスガ、三名位ノ委員ヲ更ニ御設ケ下ヌタ、議長モ之ニ參加セラレテ、能ク雙方ノ意思ヲ疎通シ、且ハ御熟議ヲ致シ、願クバ成案が出來レバソレヲ得タイト思ヒマス、ドウデゴザイマセウカ

〔「贊成タ々」ト呼フ者アリ〕
○小川平吉君 其選舉ノ方法ハ、貴族院ハ貴族院側ノ議長ニ於テ御指名ヲ願ヒタ
イ、衆議院ハ衆議院側ノ議長ニ於テ指名セラレンコトヲ望ミマス
○議長（男爵波多野敬直君） 唯今ノ元田君ノ少數委員ノ御說がアリマスガ、御異議ハアリマセヌカ

〔「贊成」ト呼フ者アリ〕
○法學博士富井政章君 議長ヲ加ヘテ二名ト云フ說ニ贊成

〔「議長ヲ除イテ二名デス」ト呼フ者アリ〕

○法學博士富井政章君 議長外アリマシタ

○議長（男爵波多野敬直君） 御異議ハアリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（男爵波多野敬直君） ソレテハサウ致シマス——貴族院側ハ廣澤伯爵、富井君、岡野君ノ三名ヲ指名致シマス
○法學博士鳩山和夫君 衆議院側ハ長島鷲太郎君、小川平吉君、松田源治君
○議長（男爵波多野敬直君） ソレテハ一應休憩致シマス

午前十一時十八分休憩

午後七時三十二分開議

○議長（男爵波多野敬直君） 是ヨリ開會致シマス

○法學博士鳩山和夫君 先刻本協議會ニ於テ御設ケニナリマシタ特別委員ハ、其後直ニ委員會ヲ開キマシテ御協議ノ末ニ成案が出來マシタ、私ヨリ御報告ヲ致シマス、

之ヲ第何條ニドウ云フ風ニ改メタト云フヤウニ御報告ヲスルト、却テ錯雜シテ御了解シ難イダラウト思ヒマスカラ、趣意ヲ御報告シヤウト思ヒマス、順序ハ條文ノ順序ニ依リマスヨリハ、寧ロ大問題ニアリマシテ御協議ノ末ニ成案が出來マシタ、私ヨリ御報告ヲ致シマスカラ、其方法ニ從ヒマス、一番長ク協議ヲ要シマシタ問題ハ、二百六十一條ニ於ケル罰則規定ニ付キマシテ少數ノ委員ノ協議ノ結果ハ、第二百六十一條第五百三十條及ヒ第九十五條第二項ヲ削ル」是ダケデアリマス、尙不足ノトコロハ他ノ委員カラ申上ゲマス、チヨット今ノ報告中非訟事件手續法中削ルモノダケ申シテ加ヘルモノヲ申上ゲマセヌデシタガ、加ヘルモノハ二百六十一條第五百三十條及ヒ第九十五條第三項ヲ削リ第二百六十二條ノ下

十一條ヲ元ノ政府ノ提出案ニ概略的ニ記載シテアリマスモノヲ列記的ニ之ヲ書改メマシタ、前ニハ背任務ト云フコトデ概略的ニ記載シテアリマシタモノヲ、四項ニ分ケマシテ列記致シマシタ、其第一ハ會社ノ設立若クハ資本ノ増加又ハ其登記ヲ爲シ若クハ之ヲ

ナサシムル目的ヲ以テ株式總數ノ引受又ハ資本ニ對スル拂込額ニ付裁判所又ハ總會ヲ欺罔シタルトキニ、何人ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ、會社ノ計算ニ於テ不正ニ其株式ヲ取得シ、又ハ質權ヲ目的トシテ之ヲ受ケタルトキニ法例又ハ定款ノ規定ニ違反シテ利益又ハ利息ノ配當ヲ爲シタルトキ、第四會社ノ營業ノ範圍外ニ於テ投機取引ノタメニ會社財產ヲ處分シタルトキ、現行ノ規定ハ、刑法ニ正條アル場合ニハ之ヲ適用セズ、此四ツノ列記シタル事柄ニ付テ斯ウ云フ條文「發起人取締役株式合資會社ノ業務ノ執行社員監査役又ハ株式會社株式合資會社支配人ハ左ノ場合ニ於テハ一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス」斯ウ云フ政府ノ提出案ハ、衆議院ニ於テ削リマシタデスカ、ソレヲ又斯様ニ改メテ之ヲ採用スルコトニ致シマシタ、ソレカラ第二百六十二條ト致シマシテ科料即チ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處スベキ事項ヲ列記致シマシタ、但此行為ハ刑ヲ科スベキトキハ此限りニアラズト云フ但書ガ付イテ居リマス、此處ニ一カラ十二マデアリマスカ、其中ニ新タニ加ハリマシタノハ十號十一號ノ一號、十號ハ會社ガ裁判所ノ命令ニ依リテ解散シタル場合ニ於テ清算人ニ事務ノ引渡ヲナサルトキ、第十一號清算ノ決了ヲ遲延セシムル目的ヲ以テ民法第七十九條ノ期間ヲ不當ニ定メタルトキ、之が新タニ加ハリマシタノデアリマス、其他ハ總テ現行商法ニヤハリ科料トシテ規定シテアルモノヲ其儘採用致シマシタ、第二百六十二條ノ一ト云フ所ニ罰則ノ所テ過料ヲ「五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス」ト云フ下ニ但書ヲ加ヘマシテ「但其ノ行為ニ付テ刑ヲ科スルトキハ此限ニアラズ」ト云フコトガ加ハリマシタ、茲ニ一號カラ十號マテ過料ヲ以テ罰スベキ規定、是モ總テ現行法ノ通リテアリマス、ソレカラ罰則以外ニ於キマシテ——ソレカラ政府案ノ中ニアリマシタ社員株主——株式會社ノ社員議決權ノコト、ソレカラ重役ノ收賄ノコト、是ハ前ニ衆議院ノ議決通りニ削除スルコトニ致シマシテ是ハ採用セザルコトニナリマシタ、罰則ニ付キマシテハ大體右様ナ趣意、ソレカラ罰則以外ニ於キマシテ衆議院ノ修正中衆議院ノ修正ハ採用セラレザルモノダケ申上ゲヤウト思ヒマス、三百六十七條ノ三ニ、衆議院ノ修正トシテハ「質入證券ニ第一ノ質入裏書ヲ爲スニ當タリ裏書人カ他人人ヲ以テ支拂擔當者トシテ預證券及ヒ質入證券ニ記載セリシトキハ倉庫營業者ヲ支拂擔當者ト看做ス」是ハ衆議院ノ修正說ヲ採用セズシテ即チ原案通り復活スルニ決定ヲセラレマシタ、ソレカラ其外四百五十一條ノ二、五百一十六條ノ二、五百三十七條等ニモウ一ツ附則ノ第二百六條ニ修正ガアリマスケレドモ、是ハ前ニ申上ゲタ支拂擔當者ニ關スル規定ヲ修正シタ整理ノ結果デゴザイマス、尙整理ノ結果ト致シマシテハ非訟手續法ノ第二百六條ヲ改メネハナラヌコトニナリマシタノデ、此條文ハ詰リ整理ノ結果デスカ、非訟事件手續法ノ第二百六條中「第五百三十六條及ヒ第九十五條第二項ヲ削ル」是ダケデアリマス、尙不足ノトコロハ他ノ委員カラ申上ゲマス、チヨット今ノ報告中非訟事件手續法中削ルモノダケ申シテ加ヘルモノヲ申上ゲマセヌデシタガ、加ヘルモノハ二百六十一條第五百三十條及ヒ第九十五條第三項ヲ削リ第二百六十二條ノ下

二「第二百六十二條ノ一ヲ加フ、斯ウ云フコトニナリマス
○伯爵廣澤金次郎君 今ノ御報告中ニ漏レタコトガアリマスガ、確カ此附則ノ十九條ノ結果ヲ行ケルト考ヘテ居リマスガ……

○法學博士鳩山和夫君 廣澤伯爵ノ御意見ノ通り、附則十九條ハ削ルコトニナッテ居ルヲ復活ニナル譯ニアリマス

○片岡直溫君 唯今小委員會ニ於テ御協議濟ノ御報告ニ對シマシテハ多少意見モゴザイマスルか、最早時期切迫デモゴザイマスルシ、段々御懇談ノ末ト考ヘマスカラ全然賛成ヲ表シマス

○法學博士花井卓藏君 本員モ本員一個ノ意見ト致シマシテハ多少論シテ見タイ點モゴザイマスガ、大體ニ於テ其商法ヲ迎フルコトヲ欲シマスルが故ニ、暫ク交渉委員ノ說ヲ請取ル積リテアリマス

○伯爵廣澤金次郎君 本員モ貴族院ノ方ノ側ト致シマシテ、唯今ノ成案ニハ賛成致シマスガ、實ハ此際申上ゲテ置キタイト思ヒマスルノハ、大ニ貴族院側ノ方カラ讓歩ヲ致シマシタ財產目錄ノ點ニ付テハ、貴族院トシテハ實ハ政府修正案ノ如キ箇條が最モ今日ノ時世ニ必要ナリト實ハ認メテ居タノデアリマス、併ナガラ是等ハ衆議院ノ委員諸君ノ御說モアリ、即チ營業稅法所得稅法ノ關係モアリ、已ムヲ得ズソレヲ今日ハ削ルコトニ賛成ヲ致シタノデアリマス、尙貴族院側ト致シ又個人トシテモイロ／＼述ベタイコトアリマスガ、大體ニ於テ本案ノ成立ハ最モ必要ナリト認メタル妥協ノ結果デアルカラ、茲ニ賛成致シマス

〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○村田保君 モウ御採決ヲ願ヒマス

○議長（男爵波多野敬直君） 御異議がナイト認メマスカラ採決致シマス

○議長（男爵波多野敬直君） ソレデハ全會一致ヲ以テ成案ノ通リ決定致シマス、是ニテ兩院協議會ヲ閉チマス

午後七時五十一分散會